

# 7/18（水）の需給状況について

2018年10月23日  
関西電力株式会社

- 前日および当日朝時点は、想定気温にもとづき、14～15時をピーク時間帯として需要想定。
- 融通申出時は、昼前頃より需要が上ブレ傾向となったため、最大電力を見直し、16～17時も同需要を想定。
- 供給力側では、電源 I' の発動などの対策を実施したが、予備率が3%未満の見込みとなったため、電力広域的運営推進機関から需給状況の改善のための融通指示を受け、16～17時に100万kWを受電した。

## 14～15時の需給バランス（想定）

[万kW, %, °C]

	エリア需要	供給力	予備力(率)	気温(最高/最低)
前日予想	2,770	2,951	180 (6.4)	36.5 / 28.2
当日朝見直し	2,770	3,029	256 (9.1)	36.8 / 27.8
融通申出時の見直し	2,870	3,074	204 (7.1)	36.8 / 27.8

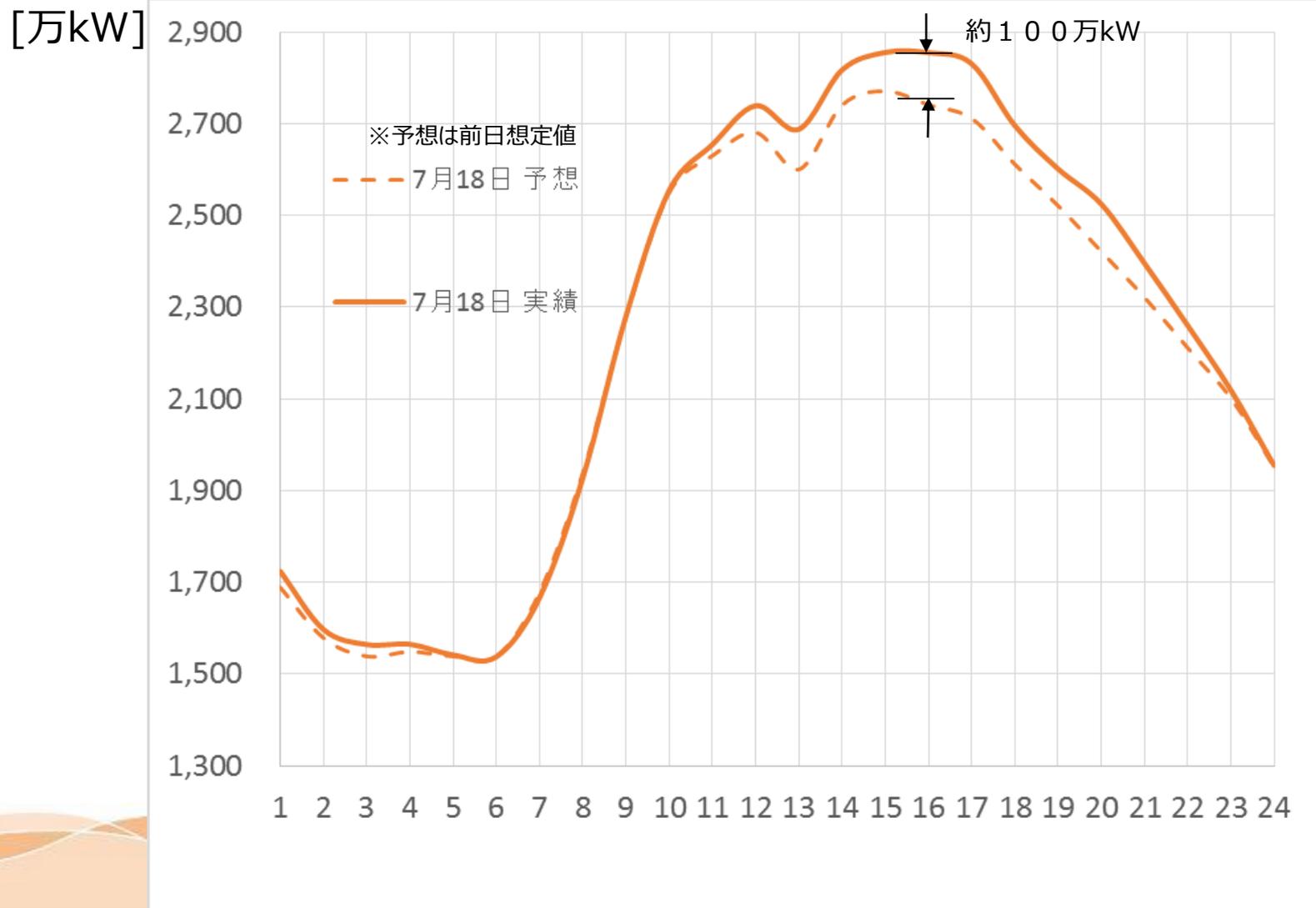
## 16～17時の需給バランス（想定）

[万kW, %, °C]

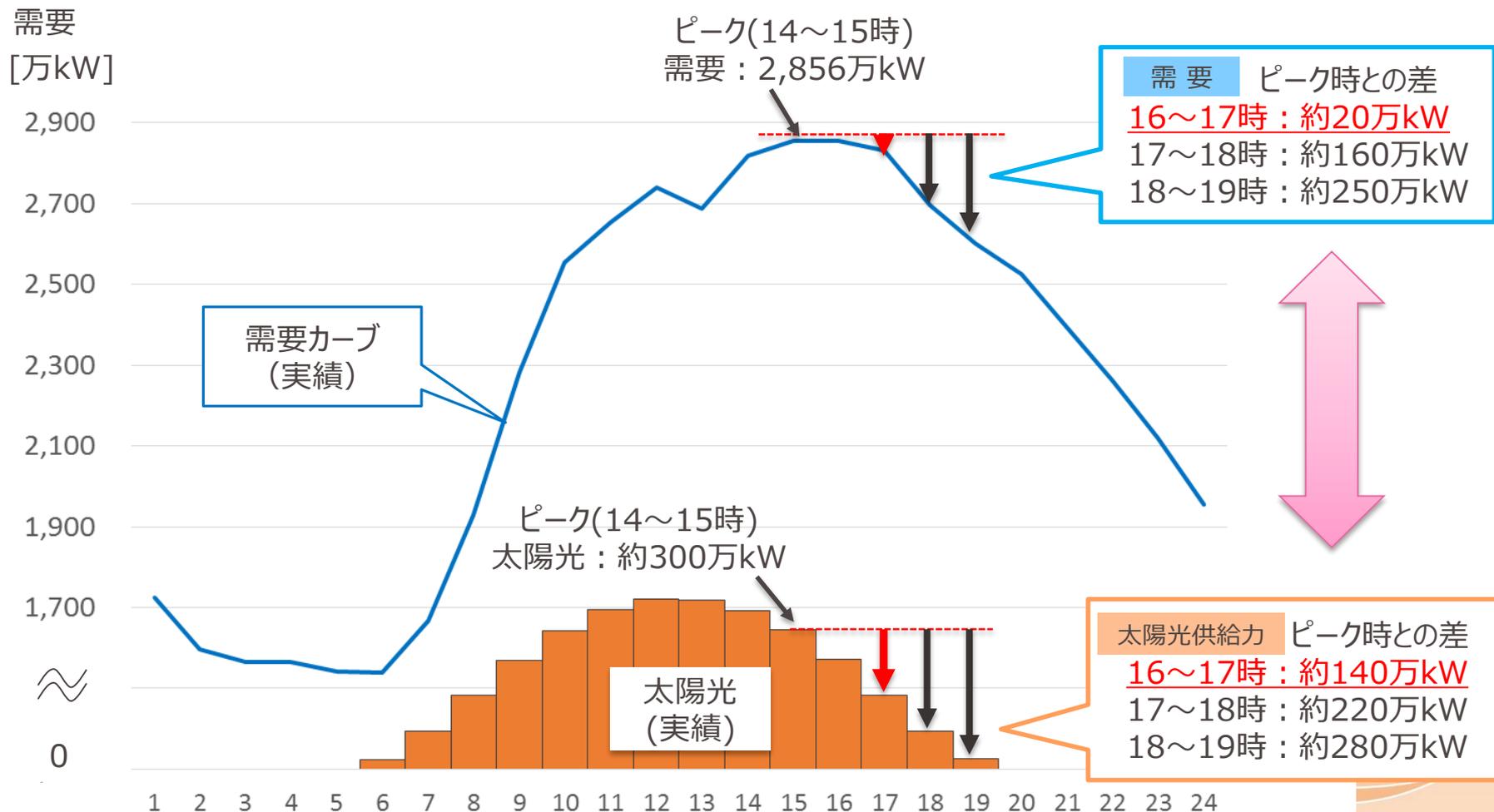
	エリア需要	供給力	予備力(率)	気温(最高/最低)
前日予想	2,710	2,804	96 (3.4)	36.5 / 28.2
当日朝見直し	2,730	2,859	131 (4.7)	36.8 / 27.8
融通申出時の見直し	2,870	2,915 →3,015	45(1.6) →145(5.1)	36.8 / 27.8

※記載の数値は四捨五入等の影響で予備力(率)の計算が一致しない場合があります。

- 深夜需要は想定から大きなズレはなかったが、11時頃から想定より上ブレ傾向となった。
- ピーク時間帯では、前日想定より100万kW程度の上ブレ。

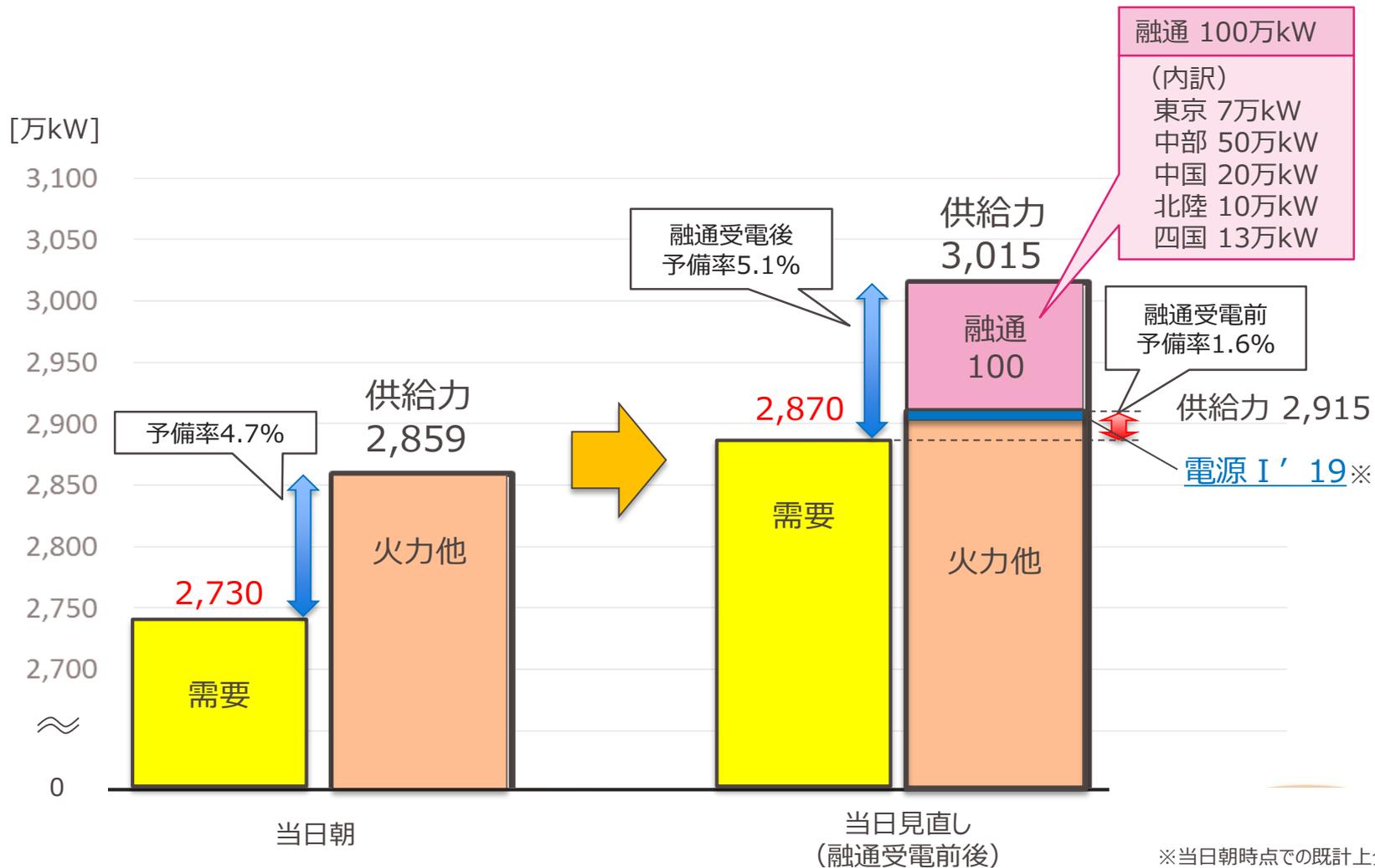


- ▶ 夕方(16~17時)は需要のピーク時間帯と比べると、需要は約20万kWの低下。一方、太陽光は約140万kWの低下のため、需要ピーク時間帯よりも約120万kW多い供給力を確保する必要があった。
- ▶ 17時以降は、太陽光の減少よりも需要の減少が大きくなった。



※ 太陽光実績は、日射量実績から算出

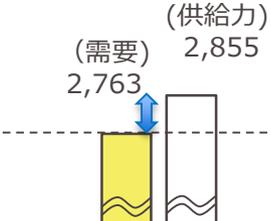
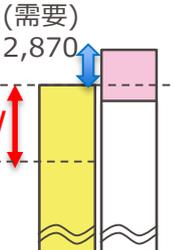
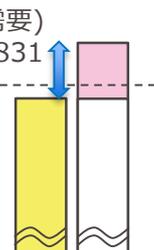
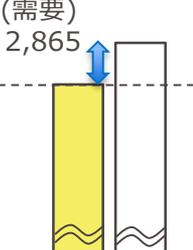
- 需要想定を見直した結果、小売電気事業者の供給力増加や電源 I' の発動を考慮しても予備率が 3% を下回る見込みとなったため、融通受電の申出を行った。



※当日朝時点での既計上分を含む

# 停止中火力ユニットの起動と、7/17～7/19の需給状況

- ▶ 御坊1G、2Gおよび海南4Gはいずれも前週まで半年程度停止していたため、起動に長時間を要する状態であった。7/17の需要が想定より上ブレしたことに伴い、翌日7/18以降の供給力対策として御坊2G、海南4Gの起動を指令し、それぞれ7/18,7/19に並列した。

	7/17	7/18	7/19
御坊1G 〔送端出力〕 58万kW	(※7/16 14:58 起動指令) 8:50 12:13 並列 フル	稼動	稼動
御坊2G 〔送端出力〕 58万kW	12:02 起動指令	14:29 17:25 並列 フル	稼動
海南4G 〔送端出力〕 58万kW	13:49 起動指令		5:08 11:37 並列 フル
需給状況 (16～17時)	・御坊1Gが稼動	・需要は前日より増加 ・御坊1Gが稼動、2Gが出力上昇中 ・融通を受電	・需要は前日とほぼ同程度 ・御坊1,2G、海南4Gが稼動
	<実績> 予備力 92万kW (予備率) (3.4%)	<想定> 145万kW (5.1%) → <実績> 186万kW (6.6%)	<実績> 153万kW (5.3%)
	単位：万kW 	 → 	

# <参考> 平日需要と日平均気温の相関について

- ▶ 過去実績における平日需要と日平均気温には以下のような相関があるが、7/17～7/18の需要実績は同気温帯における需要のレベルから大きく上昇。
- ▶ 前日断面での7/17、7/18の需要想定はほぼ相関カーブ上の想定。

・気温は大阪

